

日差しが弱くても 紫外線対策を忘れないで！

夏の正午前後は、紫外線の中でもUVB量が一番多いことで知られています。また、屋外では、直射だけでなく、地表面で反射された紫外線も浴びています。外出時は、必ず紫外線対策を提案しましょう。

★日焼け止めの選び方・おすすめのポイント 日焼け止めの効果を表す「SPF」と「PA」

SPF (Sun Protection Factor) は、UVB (エネルギーが強い紫外線) のカット効果を、PA (Protection Grade of UVA) は、UVA (波長の長い紫外線) 防止効果を“+”～“+++”の3段階で表したものです。

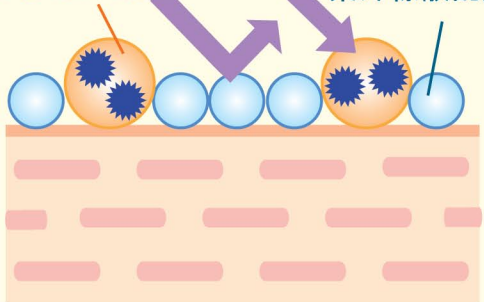
この数値は、1平方cmに厚塗りされた製剤から値を出しているのですが、実際に使用すると、かなり薄塗りとなるので、表示されている効果が十分に発揮されていないことが多いようです。紫外線を防ぐには、SPFが高いと効果も高くなりますが、紫外線吸収剤の含有量も多くなるため、肌への刺激が心配されます。日常生活であれば、SPF20～30くらいのものを目安にすすめましょう。

★アレルギーはここが違う！

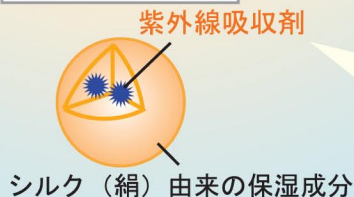
アレルギーUVPは、界面活性剤を使わずにUVカット成分を安定配合する「**ゲルネットワーク**」技術を採用。肌表面に網目状の均一な膜を形成し、UVカット成分をしっかりと固定・密着させるため、効果が長時間持続します。さらに、**ヨレ、ムラ、白浮きを抑える**とともに、なめらかな使用感です。

ゲルネットワーク技術

紫外線吸収剤 紫外線 紫外線散乱剤



断面のイメージ

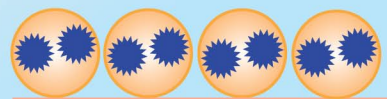


塗布後のイメージ



一般的な紫外線吸収剤

刺激があると思われる紫外線吸収剤は、安全性の高いシルク由来の保湿成分で包んでいるため、**肌に直接触れない低刺激処方!!**



カプセル化した紫外線吸収剤

紫外線反射率

アスファルト	10%
水面	10～20%
草地・土	10%以下

※気象庁の
「紫外線に関する基礎知識」より



アレルギー
UVプロテクトビューティアップ
25g 3,150円(税込)